



長門一の宮住吉神社本殿（国宝）

年頭にあたり

副庁長 金長 広典

ことなべて御身ひとつに負ひ給ひ
うらら陽のなか何思すらむ

平成十一年元旦に発表された皇后陛下の御歌であります。ご叡慮の忝けなさに、思わず感涙にむせんだことが思い出されます。と同時に、何故か肺腑を衝かれる思いが去来したことも忘れられません。

昨年を振り返り、正に内憂外患の世情、如何ばかりご宸襟をお悩ませましたことでありましょうか。大御心を拝しながら、先賢の残し給うた敬神尊皇の英知と至情を、一刻も早く取り戻さねばと思わずにおれません。

時恰も、神社庁は本年三月四日に設立六十五周年を迎えます。未曾有の敗戦、占領下に、祖国再建の真柱に斯界こそ、あらねばならないとの情念のもとに、累卵の危機を救われた、先人の歩みを見直し聞直したいものであります。

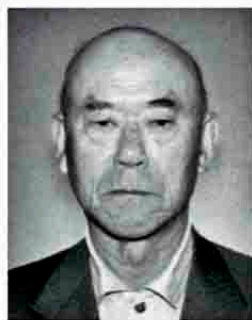
結びに、秋十月の山口国体に、天皇后両陛下が行幸啓の由に承ります。関係機関の協力を得て、日本会議山口を中心に奉迎委員会が結成されます。身を神明に奉じます私共こそ、その中核として真心こめてご奉迎申し上げたいと思います。各位のご高配を切にお願い致します。

卯歳神職雑感

春日神社

宮司 津村 和彦

(丁卯生)



八十歳以上になると、最近若年時を思い出すことが多くなりまし

た。
昭和二十二年二月神職資格正階取得。春日神社禰宜に奉職して六十二年になります。まだ当時は国家神道のなごりが残っていて多くの先輩神職からは、厳しく指導されました。

私は父が五十歳の時の子供で、高齢で病弱な父の手伝いなどある程度の神事はしていましたが二十歳の時父が他界し、直ちに春日

神社宮司を拝命しました。戦後の混乱期に氏子数七千の神社の宮司になった私は途方に暮れました。何をどうしてよいか困りましたが、

当時総代会長の堀松蔵さんと副会長の光國義太郎さんに徹底した指導と援助を受けました。会長は萩に於ける宮司として神事以外の対処の仕方、また宮司の後ろ盾として補助をされ、副会長は神社運営の企画・立案・実行・記録等諸般にわたる指導をされました。厳しすぎて私とも数回衝突したこともありすが、お陰で当時の厳しい社会に神社を守ることが出来ました。

その後、私が中年になり行政・教育・福祉・法務関係の委員などを委嘱された時参考になったことが多くありました。私の今日あるのはお二方のお陰であると今でも心から感謝しています。

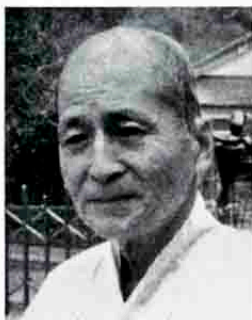
私の二十代、三十代は「勉めて難事を歩み苦勞人となれ」出光佐三氏の言を夢中でやってきたように思っています。

現在は昭和一桁の人が少しは残っていますが、今後は戦後教育を受けた人ばかりになります。神社運営も現在すでに変わってきていますが、今後は更に大きく変わって行く予想されます。これに対処するには本職に支障の無い程度に、社会奉仕をして早いサイクルで変わって行く社会の現状を知り、これに対する神社運営を思索して行かねばならぬと思います。

別府八幡宮

宮司 渡邊 克忠

(己卯生)

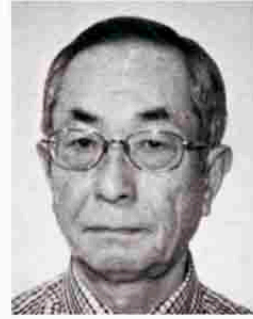


昭和四十年、体調を崩し県内の

神社を辞して親の奉仕神社に戻ったが、絶大なる権力を有していた総代会長と反りが合わず、先に勤務した大阪の宮司さんの紹介で福岡県内の神社に勤めることになった。折から動き出した復興計画と共に東奔西走の宮司の秘書として随行しているうち体調は回復した。

神社は職員一丸となり、本殿解体修理、勅使館、齋館、祈願殿の順に竣成し、遷座祭、勅使参向の奉祝大祭も終え、神社史編纂の一員として励むある日、郷里の神社の氏子内に神道系新興宗教が出来た氏子会長がその総代をしているとの報で神社を辞して郷里に帰ることになった。神社に対するお互の価値観の相違は解消せず、総代会長は数年後辞任していった。氏子各位の多大なる寄附協力で拝殿幣殿は昭和五十七年に完成した。永く臥っていた宮司は工事の進捗を目にするにはなかつたが奉祝祭を奉仕してその暮他界した。今は工事に尽力した人達も年老いて世を去り面影を偲ぶ毎日である。

小月神社

宮司 渡邊 清尚
(己卯生)

六回目の卯年を迎えることができました。

振り返ってみると、神職家の長男として生を受け、神宮皇学館を卒業して、神職の道に入り、安芸の宮島、厳島神社に奉職、下関の亀山八幡宮、姫路市の射楯丘主神社と祭典奉仕、神社運営について沢山の経験を得て、頑張っている最中、先代宮司が亡くなり、昭和四十七年二月小月神社の宮司として、神社の運営、境内整備の再興に尽力して参りました。

夢中で神仕えして、平成二十一年二月池田総裁より神社本庁表彰を受け、平成二十二年五月には保護司三十年の更生保護に携わる功

績により瑞宝双光章を賜わり、平成二十二年九月には山口県神社庁長より、神職勤続五十一年の表彰を受けることができました。

神職一筋神動したことに身の幸せを感じています。

今後は後継者に任せつつも、生ある限り奉仕したいと思っています。

これからも、斯界発展のためにご鞭撻を賜ります様お願いいたします。

松原八幡宮

禰宜 渡邊 貴史
(辛卯生)

平成の世となつてから早くも十二年が経ち、私も早や今年還暦を迎えることとなりました。

神職の資格を頂いたのも平成元年で、以来、代々宮司を務める松

原八幡宮に御奉仕をいたしていません。

振り返れば六十年という年は、過去のさまざま出来事や思いを風化させるに十分で、若い頃は、父の後を継がなければならぬと定められていたこの神職という仕事

が嫌でしかたがなかったのですが、今では天職だと思っています。

ただ、私自身は自分のことを宗教家などとは思っておらず、さまざまなお祭りを通じて氏子の方々と喜びを共に出来ればそれが一番幸せなことだと思っており、それだけなのです。

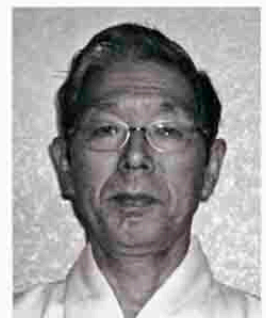
これからも健康管理には十分気をつけて一年でも長く、そうですね、卯年をあと二回迎えるまでは神職を続けられたらいいですね。

防府天満宮

禰宜 佐伯 康男
(辛卯生)

もう還暦？ まだ還暦？

省みれば月日の経つのは早いもので、父親の背中を見て、跡を継

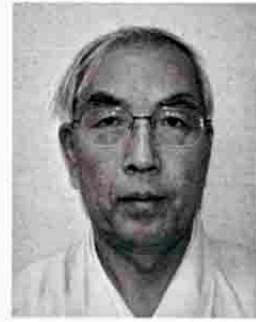


ぐ気になつて神主となり早三十五年。多くの人と関わり、育てていただき、気が付けばもう還暦を迎える歳となつた。理科系なもののか、相変わらず人付き合いが下手ではあるが、最近は面白くもあると思うようになった。青年神職会や青少年委員会での活動、氏子・総代・参拝者との触れ合いの中で言葉が人を動かすことを感じるようになったからだ。その言葉を拠所とする神主は広い見識と深い知識を持たないといけないと思う。まだ還暦。神主としても半人前である自分は、もつと研鑽を積み、多くの人と触れ合い、語り合い、御神威の発揚に努力していきたいと思う。

住吉神社

宮司 児玉依己

(辛卯生)



昭和四十九年末に、住吉神社へ
転任して、早三十六年という歳月
が流れました。この間昭和五十二
年、今年の二回遷座祭、奉祝奉幣
祭に奉仕することができ、無上の
喜びであります。

赴任当初、お社の由緒の勉強を
しておらず、御齋祭という一週間
参籠する重儀もわからず、面食ら
う始末で単に馬齢を重ねただけで
恥ずかしい限りです。

そうした中であつて、八年近く
社会人であつた次男が神主の道を
目指し、國學院大學神道専攻科へ
入学したいとの申し出に、親とし
て嬉しき半分経済的な不安半分の
気持ちでした。今春卒業し鳥取に

て神明奉仕に勤しむ毎日でありま
す。

一年間の勉強では知識も限られ
私にいろんな質問が来るが、的確
な答えも出せず悪戦苦闘の連続
で、浅学非才の身が忸怩たる思い
になります。

これからは、初心に帰り、大神
様の御加護のもと神明奉仕に励み
日々勉強と考え心新たに、新年を
迎え、邁進したいと思ひます。

鮎原神社

宮司 原田正文

(辛卯生)



還暦の春を迎えるに、無知と恥
多き吾半生に悔恨の思ひは止みが
たくも、これが自分の選択した故
の収束すべき半生であつたのかと
も、開き直つては思つてみる此の

頃です。

山村立地の小規模神社の宮司
だつた父を失い、大学を退学して、
不本意ながらも帰郷して神社を継
いだ二十歳より、二度の転職を経
て、五十五歳迄会社勤めの傍ら兼
職。四年余り前に後継者不在になつ
ていた直近の神社を兼務して、専
業の神職になりはしたが、糊口を

凌ぐに精一杯。何とか神職の仕事
に精勤して神社復興を図ろうとも、
年齢による体調の変調故か、意欲
が起こらず、鬱々悶々。省みるに、
雑事過多、交友の拡がりはそれで
楽しくもあるが、本分を逸するこ
とも多少。

さて、斯くなるは以下の格言を
掲げて、折り返しの人生を専心神
明奉仕の覚悟です。

報本反始 「お役目大事」と心
に唱えます)

御成敗式目 第一条(文言省略)
積小為大 分度を立つ(二宮尊徳
の思想)

沼八幡宮

宮司 西村千秋

(辛卯生)



学校を退職して今年が十年目、
高校時代の友人に「六一の会をや
ろうやあ。」と声を掛けられ、嘘！
遠い先の事だと思つていたのに、
もう目の前に迫つていたとは。
退職してからの歳月を思うと、
感無量の思ひがある。先代の宮司

である父の下、共に神明奉仕に務
めて来たつもりだった。しかし、
父が亡くなつて、覚えていたつも
りの事が白紙に近い状態だつたと
分かつた。父の病気が分かり退職
して半年だけ、父に習う事ができ
た。後の半分は近くの神職の先輩、
また総代さんにお話を聞いた。そ
んな中、兼務社・本務社と二年続
きの式年大祭を無事にこ奉仕でき

た時には、涙が止まらなかった。

今は息子が禰宜として奉職してくれているので、私は地域にも根を下ろし、素直に頂いた任務を果たしている。人との繋がり・導きすべてに感謝を忘れずに、神社・地域のために、氏神様の下、努力邁進して参る覚悟である。

先輩方のご指導をよろしくお願ひ致します。

防府天満宮

禰 宜 田 中 和 実
(辛卯生)



最初の一回りは、まだ戦後を引きずって、ツギのある服を着て野山を走り、脱脂粉乳を飲んで育った。貧しいが毎日楽しかった。

二回り目は、生まれ育った地を離れて試行錯誤し、新しい体験に

胸を躍らせた。二十歳のとき無謀な遊学をし、無事帰国できたのは神仏の御加護に他ならない。

三回り目は、自分の能力を勘違いし、挫折して涙したが、神縁あって家庭を持ち、三十歳で先祖の導きによってこの道に入った。

四回り目は、中堅の神職として勤めに励んだ。家庭にも力を注いだつもりだったが、四十六歳の時最愛の娘を病気で亡くした。

五回り目は、心底に悔恨の情を抱いて生きてきた。ここ数年は子供の頃に患った病の後遺症が出て体調の維持にも苦労している。二人の息子の成長と防府天満宮の禰宜という職が心の支えになった。これまでの人生を振り返るとこういうことだろうか。還暦を迎えてもなお未熟である。

願わくは斯界諸兄の更なるご鞭撻を乞いたい。



椎尾八幡宮

椎 禰 宜 原 田 浩 幸
(癸卯生)



新年おめでとうございます。早くも四度目の干支を迎えました。

それなりに社会生活の中で良い経験が出来たお蔭で、勇み足で失敗する回数が減ってきました。多少進歩した感じがします。

新年を迎えて神道諸行事が行われていく中で、参拝者の方々の認識も少しずつ変化がある様に見られます。年が明け、元旦より「初売」となり販売店は仲々賑わっています。物があふれ豊かに見えますが、心情的に内面の豊かさはどうなのでしょう。

毎年全国神社仏閣の初詣参拝者が発表されますが、「参拝者が増えたからと言って信仰が増えた

わけではない!!」と苦言を呈された遠石八幡宮故黒神直久宮司様の言葉をよく思い出します。

パソコン等の電子機器の驚異的な発達によりものごとの高率化が問われる時代に、あえてアナログ的な考え方は持ち続けたいと思います。次の干支の年まで、またかけ足となりますが、信念がぶれない様に奉務と思っております。

八幡宮

宮 司 金 田 康 正
(癸卯生)



早いもので私が宮司を拝命してから、二度目の卯年がめぐってきました。前回は、先代から引き継いでまだ年数も浅く、氏子の方々にご迷惑をおかけしながら、何とか職務をこなしている状態でした。

それから十二年がたち、節目である。式年祭も無事終えることができ、その記念事業として御社殿の補修についても、氏子の方々のご協力のもと急を要する箇所を中心に済ませることができました。式年祭については長年気になっておりましたので、ほっとしています。

今最も気になっていることは氏子数の減少です。各地区の小祭りに行っても、年々集まれる方々が減っていつています。氏子の方々の高齢化に加え、若い方は、ほとんど地元を離れておられます。

これから先の八幡宮のことを案じて、私一人の力ではどうすることもできませんが、兼職の宮司として氏子の皆さんのお力をお借りしながら、先人の遺産を絶やすことなくいかに次の世代に引き継いでいくかを日々考えています。

山野井八幡宮

権禰宜 渡 邊 元 彦
(乙卯生)

昭和五十年八月に生を受けてか



ら、早くも三回目の年男を迎えることとなった。干支が巡る十二年の間に、自身を取り巻く環境も大きく変化した。学生から社会人という立場の変化は勿論、転職により従前とは全く異なる職務に携わることとなり、現在に至っている。十二年前には思いもしなかった姿であり、随分回り道をしたように思うが、これも神様のお導きなのかもしれない。

現在、社務全般は父が担っており、私は神職資格こそ取得したものの、年に数回手伝う程度である。平素は会社員として日々の業務に追われ、なかなか思い至らないのだが、ふと時に「これで良いのだろうか」と自問することがある。日頃の立ち居振る舞い等々、振り返ると反省することばかりである。

昨年、結婚という節目を迎えた。人生の伴侶を得た今、自らが果たすべき役割も大きく変わろうとしている。今後とも神様の御加護に感謝しつつ、与えられた役割を果たしていきたいと考えている。

龜山八幡宮

禰 宜 竹 中 信 彦
(乙卯生)



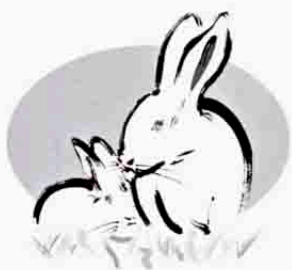
昭和五十年にこの世に生を受けてより、三回目の卯年を迎えました。この間、大病もせず過ごせました事を、神様に感謝する毎日でございます。

さて、隣人の中国ですが、昨年の尖閣諸島の件をはじめ、ろくな政治政策をしておらず、日々危機感が高まっております。現在の中

習うべき所がまったくありません。その様な中国ですが、大昔は立派な国であり偉人も沢山輩出していました。

私の尊敬する一人に孔子がおります。その孔子が残した論語に、「私の好きな一節があります。「子曰、吾十有五而志於学。三十而立。四十而不惑。五十而知天命。六十而耳順。七十而从心所欲、不踰矩。」

現在三十六歳の私は、「三十にして立ち、四十にして迷わず」の中間にいるはずですが、未だに自分なりの基礎も確立しておらず、また、日々戸惑っております。少しでもその言葉に近づけるように精進して参りたいと思います。



神嘗祭を「奉仕して

大藏神社 宮司 森 栄三

去る十月十五日と十六日の両日、神宮『外宮・神嘗祭』のご奉仕をする機会を頂戴いたしました。

こと』との心得を強く受け、同九時には床が敷かれ翌日に備えることとなりました。

神宮司庁からの①神職としての職歴を有すること。②奉仕に堪える得る体力を有すること。③大麻頒布の実績を有すること等々の選考対象とする書類を受け忸怩たるものを払拭出来ず、「有り難い」「勿体ない」との感喜とは裏腹に心の葛藤が続く中、不安を抱きつつ、十四日の午後四時、外宮の齋館に到着しました。参籠に入り、松本権禰宜様から齋館内の説明を受け、殊に『祭主様を始め大宮司様や少宮司様も神嘗祭に控えておられる』とのことにて粗相のないようにとの御達しに、身の引き締まる思いが募りました。同七時森権禰宜様から祭式の習礼の指導をいただき、神社祭式とは異なり『神宮の祭式は自然体にて、拝礼は鄭重にする

翌十五日の午前十時に熊谷禰宜様の案内により、恐れ多くも何とご正宮内に我々奉仕者を通し下さり、奉仕者の四名の夫々は満腔の感激を抱きつつも、夜半の由貴夕大御饌祭の著版（ちやくはん・着座のこと）の確認と併せ、参進の所作などの心積もりを描くことが出来ました。その後は沈思黙考して只々祭典に備えました。

午後六時過ぎ少宮司様から奉仕の辞令を拝受いたし、お仕え申し上げる重みを確と感じ入りました。潔斎を済ませ、同九時に小湊出仕様より着装の取計らいをいただき、同九時四十分に齋館の広庭に参集、下郎立ちにて私どもは最初に着き、神宮の神職の整列の後に少宮司様・大宮司様、最後に祭主様のお出ま

しを仰ぎまして列立は整い、同十三時三つ太鼓を合図に参進、玉砂利を踏む音に夜の帳を降ろすかのような躍動感を覚え、連綿と受け継ぎたる祭儀の尊厳性が正に六根に沁み入りました。修祓を受けご正宮の左側に縦列にて著版したところ、祭主様を始め大宮司様や少宮司様より恐れ多くもご正宮に近い位置に居座ることに驚懼した次第でありました。しかも次第に随つての全てを目の辺りに出来ることに深い感銘を覚え、感謝の念が湧き出しました。浄闇を松明が誘う厳かな祭典を脳裏に刻みつつも、奉仕者は八度拝と俯伏（ふふく）のみの所作ではありますが全うすることに傾注しました。

神宮の祭典の所作の一つ一つは実に細やかであり、かつまた鄭重になされ、しかもリズムカルな進みに『一君万民』『君民一体』の全ての祭儀が陛下のご名代である祭主様を要に照々として、威を振ることはなく自然体にて、平伏ではなく地に額を擦り付ける俯伏の所作は天皇陛下への自らの畏

敬を表意したもののように思えたりませぬ。

「有り難い」「勿体ない」との感慨は変わることなく、由貴夕大御饌祭・奉幣祭を外宮と多賀宮の両宮にてご奉仕申し上げました。

本宗の五大祭の『神嘗祭』にご奉仕する機会をお与え下さいましたことに深く感謝申し上げます。

付記

神宮司庁から『所作はない、正座して一時間ないし二時間奉仕すること』との通達をいただき、お白石の上に座ったことはなく、足に石が食い込んでの苦痛などを想像するにつけ気持ちが悪くなり不安になりましたが、神宮にてご奉仕をされた方々に伺ったところ、座った折に足を揺さぶりお白石の間に足がくするように着座するとよいとのアドバイスをいただき、実践してみたら、祭典の時間ですが外宮と多賀宮の両宮併せて、約一時間二十分前後でしたので、正座による苦痛はさほどに感じる間もなくご奉仕することができました。

平成23年度山口県神社庁主要行事予定

Table with 3 main columns for dates, times, and event names. It lists various events such as '歳旦祭・御用始', '総代会役員会', '神職養成講習会', and '神職大会' across different months and days.

平成22年度山口県神社庁歳入歳出予算書

自 平成22年7月1日 至 平成23年6月30日

Table showing the budget for 2022. It is divided into '歳入' (Income) and '歳出' (Expenditure). Income includes items like '本庁幣帛料' and '寄付金'. Expenditure includes '本庁幣帛料', '本宗神徳宣揚費', '旅費', and '講習会費'. A total of 105,285,000 is shown for both income and expenditure.

※平成22年6月21日開催の定例協議員会にて承認

ご案内

**山口県神社庁設立六十五周年記念
神社関係物故者慰霊祭
神職大会・記念講演会**

演題 神道の根本義―いのちと血統の連続―
講師 皇學館大学 学長 伴 五十嗣郎 先生

◎とき 平成二十三年三月二十四日(木) 午前十時より
◎ところ 山口県神社庁

お知らせ

**山口県神社庁設立六十五周年記念
山口県神社関係者大会**

◎とき 平成二十三年九月二日(木) 午前十時より
◎ところ 山口県総合保健会館

新任神職紹介

降松神社 禰宜

(周南支部)

神足 篤彦

昭和五十九年生



今度降松神社禰宜を拝命いたしました神足篤彦でございます。今は東京都永田町に御鎮座の日枝神社で、兼務として奉仕しております。神職として人としてまだまだ

学ぶべき事が沢山あると思います。多くのことを見聞し一人前の神職になるべく努力していきたいと思っております。

また本務社に帰りました節には、宜しくお願ひします。

椿八幡宮 権禰宜

(阿萩支部)

宮原 恒太

昭和六十一年生
兼務 銀座一丁目歯科



この度、椿八幡宮の権禰宜に任じられました宮原恒太です。兼務で歯科技工士をしているので歯が悪くなつたらよろしくお願ひします。

今回、新任神職として神道の道に入るのですが、一生懸命勉強して、よりよい祭式にしていきたいと思ひます。椿八幡宮をもつと盛り上げていくよう頑張ります。

住吉神社 権禰宜

(下関支部)

定村 政尚

昭和六十三年生



この度、長門一宮住吉神社権禰宜に拝命致されました定村政尚と申します。

ようやく神職として新たな一歩を踏み出すことができ、嬉しく思っております。また、ここからがスタートと思っており、気を抜かず初心を忘れずに日々奉仕して行きたいと思ひますので、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願ひします。

神社庁研修所主催

研修修了者報告

教養研修会

期日 平成二十二年三月十二日 (○・五日間)

場所 遠石八幡宮

講師 友田 光

修了者 石村 正彦・宇多健一郎

河谷 和典・河谷 昭彦

児玉 倩史・神田 幹夫

神本 正寛・黒神 直大

佐伯 和宣・神足 正己

佐伯 聰子・越田 祐輝

大衆 博子・高階 正 有島 佳延・森 栄三 修了者 金田 正仁・児玉 依己
 橘 美江・藤井美津子 柴田 宜夫・川西 裕久 工藤 弘志・岡本 幸
 神原 正臣・宮本 公胤 山本 光徳・渡邊 章子 白石 高司・高山 敏洋
 宮本 吉光・村上 基起 渡邊 清尚・渡辺 宏子 福永 補且・有島 靖久
 村上 浩基・森重 美典 田部 季信・田部 宗紀 一木 義敬・白石 治宣
 河谷佐也香・渡邊 貴史 初任神職研修 渡邊 司郎・一木 高史
 村上 道成・佐伯 栄和 期日 平成二十二年五月十一日 長谷部有哉

時局問題研修会

期日 平成二十二年三月十七日 場所 山口県神社庁
 講師 野村 清風・鳴瀬 道生 期日 平成二十二年六月十九日
 全教神協中国ブロック研修会

(○・五日間)

場所 八幡磨能峰宮 講師 金長 広典・磯部 正明 場所 松陰神社記念館・秋本陣
 講了者 宮崎 宏視・宮崎 匡敬 修了者 宮成 惠臣・松田 良和 講師 上田 俊成・道迫 真吾
 齋藤 尚子・宮原スミ子 水野 申久・林 直明 修了者 青木 淳・広江 直澄
 田村 繁晴・河村 和明 小野 渚・中原 勇太 河野 光男・吉田 重隆
 宮国 則里・上田 固成 原田 有理・松田 紘明 上田 固成・志賀 守彦
 高山 宣道・伊藤 祐史 祭式研修会 金子 正尚・西村 久道
 宮崎 敬・鹿嶋やよひ 期日 平成二十二年五月十四日 林 紘宣・金田 康正
 陽 伸孝・玉井 敏生

教養研修会

期日 平成二十二年三月三十日 場所 遠石八幡宮 (○・五日間)
 講師 宮成 惠臣 森重 美典・松原 利直
 西村 千秋

(○・五日間)

場所 龜山八幡宮 修了者 神原 正臣・佐伯 栄和 祭式研修会
 講了者 水野 大直・高山 敏洋 河谷 和典・山本 直樹 期日 平成二十二年六月二十三
 日(二日間)
 場所 山口県神社庁
 講師 山口 眞純・宮成 惠臣 茂木 貞純・宮成 惠臣
 黒神 直大 講了者 市木 澄生・佐古 建彦
 原田 正文・末満 良勇 祭式並衣紋研修会
 期日 平成二十二年八月十日

場所

期日 平成二十二年七月八日 教化研修会
 場所 山口県神社庁 (○・五日間)
 講師 西村 久道・真庭 宗雄 講了者 押本 竜人・村上 浩基
 越智 宣彰

(○・五日間)

場所 山口県神社庁 講了者 豊岳 則子・藤井 俊通

磯部 正明・工藤 松雄 期日 平成二十二年六月三日
 工藤 弘志・竹中 恒彦 四日(一・五日間)
 竹中 信彦・二藤 文明 場所 山口県神社庁
 佐藤 基信・高橋 真史 講師 水野 大直・田中和実
 多田 宣義・有島 靖久 青田 國男

講了者 秋永 勝彦・前田 周作 講了者 栗栖 昭夫・上尾 家隆
 大司 盛久・児玉 依己 雅楽研修会 日(二日間) 高橋ゆかり・林 紘宣
 磯部 正明・工藤 松雄 期日 平成二十二年六月三日
 工藤 弘志・竹中 恒彦 四日(一・五日間)
 竹中 信彦・二藤 文明 場所 山口県神社庁
 佐藤 基信・高橋 真史 講師 水野 大直・田中和実
 多田 宣義・有島 靖久 青田 國男

（〇・五日間）

場所 山口県護国神社

講師 宮成 恵臣

修了者 入江 宗徳・松村 卓正

道中 豊明・小方 礼次

福永 補旦・松田 良治

松田 年通・真庭 宗雄

宮成 宣継・宮成 眞澄

高橋 敦子・古屋 倫史

吉宮 博胤・河野 修政

倉田 寿明・佐伯 正克

石村富海夫

祭式研修会

期日 平成二十二年八月十一日

（〇・五日間）

場所 岩国護国神社

講師 宮成 恵臣

修了者 三上 則雅・玉井 敏生

栗栖 昭夫・松尾 正教

上尾 家隆・松田 恒博

西村 久道・西村 信行

鍵山 正彦・佐古 建彦

西村 直彦・三上 従家

黒杭 譲・宮地 秀尚

市木 澄生・原田 浩幸

豊岳 則子・下村 淳麿

佐伯 栄和・永田 正高

社頭講話研修会

期日 平成二十二年八月二十四日

日（〇・五日間）

場所 白山比咩神社

講師 金長 広典・真庭 宗雄

修了者 長尾 健彦・磯部 正明

西村 久道・玉井 敏生

西村 信行・宮地 孝宗

宮地 秀尚・三上 則雅

佐古 建彦・原田 正文

永田 正高・山田 收入

高橋ゆかり・藤井 俊通

西村 春樹・栗栖 昭夫

河本 文夫

講演講師養成研修会

期日 平成二十二年十月四日

（〇・五日間）

場所 山口県神社庁

講師 金長 広典

修了者 真庭 宗雄・長尾 健彦

宮崎 賢次・磯部 正明

田村 繁晴・佐古 建彦

西村 久道

教養研修会

期日 平成二十二年十一月二十

六日（〇・五日間）

場所 中津瀬神社

講師 渡辺 一秀

修了者 白石 正典・白石 真三

白石 治宣・丸茂 雄治

宮崎 賢次・宮崎 正隆

白石 恵彦・百濟 忠登

志賀 守彦・吉本 正彦

組田 福彦・白石 篤正

渡邊 司郎・河本 文夫

野村 清風・野村 敦

渡邊 和彦

神宮大麻頒布研修会

期日 平成二十二年十一月二十

九日（〇・五日間）

場所 山口県神社庁

講師 亀田 幸弘・金長 宏典

稲 貴夫

修了者 真庭 宗雄・小方 礼次

松田 良治・松田 年通

松田 紘明・高橋 敦子

松村 卓正・福永 補旦

道中 豊明・入江 宗徳

藤井 康信・河野 修政

倉田 寿明・佐伯 正克

石村富海夫・徳倉 照夫

青少年対策研修会

期日 平成二十二年十二月二十

日（〇・五日間）

場所 山口県神社庁

講師 木村 修司

修了者 宮崎 賢次・真庭 宗雄

宮成 宣継・白上陽一郎

安達 千仁・佐伯 康男

峰 和生・高橋ゆかり

中原 勇太・高橋 二臣

特別奇贈金奇贈者ご芳名

ご寄贈いただきました全ての宮司様方に、紙上を借り厚く御礼申し上げます。（順不同）

岩国支部

椎尾八幡宮 宮司 市木 澄生

瀬田八幡宮 宮司 下村 淳麿

岩隈八幡宮 宮司 後藤 矛子

周東支部

長尾八幡宮 宮司 長尾 健彦

白鳥八幡宮 宮司 大田 稜

山田神社 宮司 山田 收入

代田八幡宮 宮司 三宅 定宏

大帯姫八幡宮 宮司 上山 明德

高松八幡宮 宮司 金長 広典

八幡宮 宮司 林 紘宣

周南支部

冠天満宮 宮司 佐伯 栄和

遠石八幡宮 宮司 黒神 公直

二所山田神社 宮司 宮本 公胤

花岡八幡宮 宮司 村上 基起

降松神社 宮司 神足 正己

辰巳神社 宮司 石川 美一

防府支部

春日神社 宮司 佐伯 博祥

玉祖神社 宮司 氷室 亘

山口支部

中領八幡宮 宮司 宮崎 治久

殿島神社 宮司 入江 宗徳

豊栄神社 宮司 真庭 宗雄

朝田神社 宮司 宮成 恵臣

古熊神社 宮司 真庭 宗雄

長陽支部

琴崎八幡宮 宮司 白石 正典

赤岩神社 宮司 組田 徳昌

八幡宮 宮司 野村 清風

中津瀬神社 宮司 丸茂 雄治

松郷八幡宮 宮司 白石 真三

横瀬八幡宮 宮司 志賀 守彦

常石八幡宮 宮司 白石 恵彦

古尾八幡宮 宮司 宮崎 正隆

平原八幡宮 宮司 百濟 忠登

赤間神社 宮司 水野 直房

下関支部

亀山八幡宮 宮司 竹中 恒彦

忌宮神社 宮司 磯部 正明

彦島八幡宮 宮司 柴田 宜夫

中山神社 宮司 三ヶ本充輝

住吉神社 宮司 鳴瀬 道生

豊浦支部

白山神社 宮司 磯部 満夫

大美支部

西八幡宮 宮司 中原 健二

阿萩支部

春日神社 宮司 津村 和彦

松崎八幡宮 宮司 安達 弘校

太波谷稲成神社 宮司 角河 和幸

庁 務 日 誌

5月

- ▽1日 月次祭
- ▽10 14日 中国地区中堅神職研修(広島県) 生駒 治・白石真三・佐伯和宣・松吉保昌・入江宗徳受講
- ▽11日 正副庁長会、イセヒカリ御田植祭
- ▽11 14日 初任神職研修
- ▽14日 役員会
- ▽17日 熊南神社総代会総会 宮崎理事出席
- ▽19 20日 中国地区社頭講話研修会(広島県)
- ▽20日 周南支部神社総代会 野村庁長出席
- ▽24日 神政連山口県本部役員会、勸伊勢神宮式年遷宮奉賛会山口県本部監査
- ▽25日 教学研究部
- ▽25日 全国神社総代会代議員会(神社本庁)
- ▽26日 神社本庁表彰式(赤坂ブリンズホテル)、岩国支部総会 金長副庁長出席
- ▽27 28日 神社本庁評議員会(神社本庁)
- ▽29日 班斃式・神社庁長会議

(神社本庁) 6月

- ▽1日 月次祭
- ▽2日 教化委員会
- ▽3日 「後継者問題実態調査」実施神社庁との連絡会(神社本庁) 西村副庁長・松田参事出席
- ▽3 4日 山口県神社雅楽会総会・研修会
- ▽4日 第二十八回神社本庁神道教学研究大会(神社本庁) 西村副庁長・宮崎理事・松田参事参加
- ▽7日 勸伊勢神宮式年遷宮奉賛会山口県本部理事会・評議員会、神政連本部長・事務局長連絡会 磯部本部長・高橋事務局長出席
- ▽8日 神政連中央委員会(神社本庁) 磯部本部長・宮成副本部長・黒神幹事長・鈴木総務部長出席
- ▽9日 豊浦支部総代会総会 宮崎理事出席、神宮評議員会
- ▽14日 神職大会、神政連山口県本部支部幹事青年隊合同会議、神道史研究会役員会議
- ▽16 17日 神社庁事務担当者会(神社本庁) 松田参事出席
- ▽17日 山口県神職夫人の会総会
- ▽19 20日 全神教協中国ブロック研修会(松陰神社)

- ▽21日 神職養成講習会講師打合せ会、定例協議員会
- ▽22 24日 第二十六回神道講演全国研修会・山口大会(松陰神社)
- ▽23日 祭式研修会
- ▽25日 敬神婦人連合会総会、青少年委員会、北方領土返還要求山口県民会議理事会 松田参事出席
- ▽27日 阿北支部神社総代会総会 柴田理事出席、大島支部神社総代会総会 西村副庁長出席
- ▽28日 後継者対策結婚相談委員会
- ▽29日 調査研究委員会
- ▽30日 大祓 7月
- ▽1日 月次祭
- ▽2日 正副庁長会、女子神職会 総会 野村庁長出席
- ▽5日 役員会議、支部長事務局長会議、山口県神社総代会役員会
- ▽7日 八幡宮会役員会・総会
- ▽8日 教化委員会研修会
- ▽9日 山口県神職夫人の会役員会
- ▽12日 神道史研究会総会
- ▽16日 北方領土返還要求山口県民会議総会 田村理事出席

- ▽25日 神職養成講習会補助講習会
- ▽28日 神職養成講習会開講式 8月
- ▽1日 月次祭
- ▽3日 教化委員会
- ▽4日 調査研究委員会
- ▽5日 大美女支部美祢神社総代会 総会 西村副庁長出席
- ▽7日 周東支部総会 金長副庁長出席
- ▽16日 文化財愛護協会理事会・総会 西村副庁長出席
- ▽18日 神社庁諸問題対策委員会
- ▽19日 周南支部会 黒神理事出席
- ▽21日 神政連山口県本部役員会、山口県教育関係神職協議会総会 西村副庁長出席
- ▽23日 下関支部会 磯部理事出席、全国敬神婦人会常任委員会・総会(北海道)
- ▽24日 巡回祭典後講話研修会(岩国支部)
- ▽25日 広島県神社関係者大会(広島市) 野村庁長出席
- ▽28日 神職養成講習会閉講式、役員会議 9月

- ▽2 3日 神社本庁教誨師研究会
- ▽6日 教化委員会、神宮大麻増頒布推進委員会、青少年委員会、伊勢神宮式年遷宮奉賛会事務局 長会
- ▽6 10日 中国地区中堅神職研修(岡山県) 松吉保昌・宮成宣継受講
- ▽9 10日 神社庁祭式講師研究会(國學院大學)宮成・長尾講師参加
- ▽10日 山口県神社関係者大会
- ▽13日 遷宮啓発委員会
- ▽14 15日 中国地区教化会議(岡山県) 西村副庁長・真庭教化部長・黒神教化副部長出席
- ▽16日 モデル支部対策担当者会(神宮会館) 真庭支部長・松田参事出席、神道文化会評議員会(神宮司庁) 野村庁長出席
- ▽17日 神宮大麻頒布始祭(神宮) 野村庁長・真庭支部長・松田参事参列、神宮大麻頒布秋季推進会議(神宮会館) 野村庁長・真庭支部長・松田参事出席、国民精神研修財団評議員会(神宮会館) 野村庁長出席、神社庁長懇話会(神宮会館) 野村庁長出席、伊勢神宮崇敬会地方本部事

人事

一、神職異動

発令年月日	任免別	職名	神	社	名	氏	名
22・5・1	昇任	権宮司	下関市阿弥陀寺町		赤間	水野	大直
〃・〃・〃	転任	宮司	下関市一の宮住吉		住吉	鳴瀬	道生
〃・〃・〃	兼任	〃	下関市豊田町大字江良		豊田	〃	〃
〃・〃・〃	〃	〃	下関市豊田町大字殿敷		東八幡	〃	〃
〃・〃・〃	〃	〃	下関市豊田町大字稲見		河内	〃	〃
〃・〃・〃	〃	〃	美祿市豊田前町麻生上		八幡	〃	〃
〃・〃・〃	〃	〃	下関市大字小野		八幡	〃	〃
〃・〃・〃	〃	〃	下関市大字勝谷		勝谷	〃	〃
〃・〃・〃	〃	〃	下関市大字井田		菅原	〃	〃
〃・〃・〃	〃	〃	下関市大字秋根		菅原	〃	〃
〃・〃・〃	〃	〃	下関市大字形山		菅原	〃	〃
〃・〃・〃	〃	〃	下関市大字伊倉		菅原	〃	〃
〃・〃・〃	〃	〃	下関市大字綾羅木		菅原	〃	〃
〃・〃・〃	〃	〃	下関市阿弥陀寺町		赤間	青田	國男
〃・〃・〃	〃	〃	山口市阿東嘉年上		八幡	石村	富海夫
〃・〃・〃	〃	〃	山口市阿東嘉年上		熊野	〃	〃

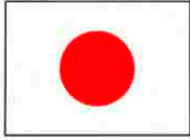
- 務局長会（神宮会館） 松田参事
 出席
 ▽18日 神社庁長会議（神宮司庁）
 野村庁長出席、『皇室』普及委員会（神宮司庁）野村庁長出席、
 勸伊勢神宮式年遷宮奉賛会事務局長会議（神宮会館） 松田参事
 出席、
 ▽21日 〓イセヒカリ拔穂祭 田村 雲市民会館）
 ▽22日 〓山口県女子神職会役員会 理事参列
 ▽24日 〓神政連山口県本部支部幹事青年隊合同会議・研修会、神政連山口県議会議員懇話会総会
 ▽27日 〓山口県神社総代会研修旅行（出雲市）
 ▽28日 〓全国神社総代会大会（出雲市市民会館）
 10月
 ▽1日 〓月次祭
 ▽4日 〓講演講師養成研修会
 ▽5日 〓神社本庁定例協議員会
 ▽6日 〓今八幡宮例祭 献幣使 金長副庁長
 ▽10日 〓椿八幡宮千七百年式年祭 献幣使 田村理事
 ▽12 〓14日 〓神社本庁青少年対策
 研修会（山梨県） 河本文夫・峯和生参加
 ▽15日 〓琴崎八幡宮千七百年式年大祭 献幣使 野村庁長
 ▽18日 〓山口県女子神職会研修会
 ▽18日 〓正副庁長会
 ▽20日 〓役員会議、支部長事務局局長会議、神宮大麻頒布始祭
 ▽20 〓22日 〓青少年対策研修会（長野県） 河本長陽支部教化委員・峯青少年委員参加
 11月
 ▽1日 〓月次祭
 ▽2日 〓山口県神道史研究会研修旅行
 ▽4日 〓下関支部神社総代会研修会
 ▽9 〓10日 〓中国地区神社庁職員研修（松江市）
 ▽10 〓11日 〓全国教化会議（神社本庁） 黒神理事出席
 ▽17日 〓玖南神社総代会総会・研修会
 ▽18日 〓住吉神社本殿遷座奉幣祭 献幣使 野村庁長、山口県神職夫人の会研修会
 ▽24日 〓正副庁長会
 ▽25日 〓古熊神社例祭 献幣使 西村副庁長
 ▽29日 〓監査、山口支部神宮大麻頒布推進会議、神政連山口県本部街頭遊説（宇部方面）
 ▽30日 〓阿萩支部神社総代会総会 田村理事出席
 12月
 ▽1日 〓月次祭
 ▽2日 〓敬神婦人連合会小旗作り
 ▽16日 〓正副庁長会、
 ▽17日 〓神職身分詮衡委員会、役員会議
 ▽28日 〓大祓、御用納め

平成二十二年度支部・分会 神宮大麻頒布始祭

- 10月
 ▽26日 〓防府支部 宮崎理事
 周南支部 西村副庁長
 ▽27日 〓長陽支部 野村庁長
 岩国支部 西村副庁長
 豊浦支部 宮崎理事
 ▽28日 〓阿萩支部 野村庁長
 ▽29日 〓山口支部 金長副庁長
 11月
 ▽1日 〓周東支部 金長副庁長
 ▽4日 〓下関支部 宮崎理事
 熊南分会 眞庭理事
 ▽8日 〓阿北分会 野村庁長
 ▽11日 〓大美支部 柴田理事
 ▽17日 〓玖南分会 金長副庁長
 ▽18日 〓大島分会 西村副庁長

竹中恒彦 亀山八幡宮 宮司 山口県神社庁参与	上田俊成 松陰神社 宮司 山口県神社庁顧問	黒神公直 遠石八幡宮 宮司 山口県神社庁顧問	宮崎義敬 山口県神社庁顧問	尾崎壽 丸山八幡宮 宮司 山口県神社庁監事	鳴瀬道生 住吉神社 宮司 山口県神社庁監事 山口県神社庁教化講師	小田明 神社本庁評議員 山口県神社庁理事 山口県神社総代会長	黒神直大 遠石八幡宮 禰宜 山口県神社庁理事
白石正典 琴崎八幡宮 宮司 山口県神社庁参与	河谷昭彦 山崎八幡宮 宮司 山口県神社庁参与	小方基次 山口縣護國神社 宮司 山口県神社庁参与	津村和彦 春日神社 宮司 山口県神社庁参与	中原勉 三田八幡宮 宮司 山口県神社庁参与	宮崎直祐 南方八幡宮 宮司 山口県神社庁参与	水野直房 赤間神社 宮司 山口県神社庁参与	
渡辺一秀 徳佐八幡宮 宮司 山口県神社庁協議員会副議長	有島靖久 嚴島神社 宮司 山口県神社庁協議員会議長	神足正己 降松神社 宮司 山口県神社庁参与	鈴木宏明 防府天満宮 宮司 山口県神社庁参与	氷室巨 玉祖神社 宮司 山口県神社庁参与	三ヶ本充輝 中山神社 宮司 山口県神社庁参与	宮成恵臣 周防五宮朝田神社 宮司 山口県神社庁参与	角河和幸 太鉾谷稲成神社 宮司 山口県神社庁参与
権祢宜松 権祢宜松 田年通 明	祢宜松 宮司松 田良治 田良和	祢宜光 宮司入江宗徳 永公德	祢宜宮崎 宮司宮崎 崎治久 崎治久	宮司友田光 嚴島神社	宮司石川美一 辰尾神社	宮司村上基起 花岡八幡宮	代田八幡宮 宮司三宅定宏
		山口県女子神職会 副会長高橋敦子 会長渡邊宏子 宮成真澄	人丸神社 宮司片山隆根	乃木神社 宮司松吉宣和	生野神社 宮司田部季信 下関市幡生宮の下町 〇八三丁五十二五六八	當島八幡宮 宮司白石篤正	周防五宮朝田神社 宮司宮成恵臣 祢宜宮成宣繼

祝・祭日には



国旗を掲げよう

山口県神社庁
支部長・事務局長

岩国支部

三上 則雅

周東支部

永田 正高

周南支部

上井 吉道

防府支部

宇高 階正

山口支部

石村 博守

長陽支部

小真 庭宗

下関支部

宮百 崎忠

豊浦支部

柴有 田靖

大美支部

西西 嶋史

阿秋支部

宮中 原寛

白尾 上崎 豊壽

山口県青年神職会

会長 宮本 史胤

副会長 一木 孝史

” 中原 祥就

” 高橋 真史

事務局 白山比咩神社
宮地 秀尚

山口県氏子青年連合会

会長 平岡 泰彦

副会長 惣田 勇

” 松田 富士夫

外役員 一同

事務局 亀山八幡宮内
佐藤 基信

山口県神職夫人の会

会長 西村 節子

副会長 上原 葉子

” 丸茂 千代江

自動おみくじ機 製作直売
おみくじ

山口県周南市鹿野上
女子道社

電話 〇八三四一六八一二〇〇一番
FAX 〇八三四一六八一二九五八番

山口県敬神婦人連合会

会長 山口 富美子

副会長 山根 洋子

” 小林 富江

” 佐々木 洋子

氏子の管理
ご寄進の管理に
社務システム

『みこちゃん』

株式会社 エム・アイ・シー

電話 〇八三三一四一七二五〇
FAX 〇八三三一四一六三九八

(社)全国社寺等屋根工事技術保存会員

檜皮葺

柿葺

銅板葺

土居葺

専門請負

創業 天保初期

株式会社 かわたや

佐々木 真

山口市田政寺町五十四
電話 山口九三三二六五一
FAX 山口九三三一八〇〇

御装束・祭具・神具・授与品

有限会社 岡本装束店

京都府亀岡市大井町小金岐二丁目七十四

電話 〇七七二二四一五〇八五
FAX 〇七七二二四一五〇九五

山口県神道史研究会

会長 宮本 公胤

副会長 友田 光

” 長尾 健彦

